

「いのちのことば」2017年6月号に小生はびっくりした。野田先生の「わたしの信仰履歴書」第1回が書かれている号の巻末に小平牧生さんの著書とご本人の紹介があります。牧生さんは兄弟団西宮教会を守り広く宣教された小平照夫牧師のご長男です。65年前、小平牧師は明治大学の学生でしたが、栃木県矢板に宣教師として来られたウォルター・ブルンシュワイラー師の通訳として聖日礼拝でご奉仕されておりました。私はそのころバイブルクラス、そして礼拝に出席し、初めてキリスト教に触れました。

矢板に育った私は家庭の事情もあり大学進学をあきらめ、小学校の代用教員になりました。3年目に肺結核のため2年休職し、体調が回復してきた折に教会に導かれたのです。その後、幸いにも一橋大学に合格。大学院に進み数理研究を続ける中、1973年アジアの若手研究者の一人としてライシャワー博士からハーバード大学の研究員として招聘されました。そこで交渉学と出会い、日本で最も必要とされる学問だと信じ帰国後も研究を続け、1989年には博士の助言もあり交渉学会を立ち上げ現在にいたっています。

交渉の語源は「燮」（ショウ・やわらげる）で、燃えさかる両者の意見を言葉で収めると言う意味です。ところが、人間の智恵による言葉には間違いがあります。神の真の言葉を用いなければならぬと確信しています。

学生時代、ゼミの久武雅夫先生がゼミ生に贈ってくださったみ言葉「主を畏れることは知識のはじめである」（箴言1：7）のみ言葉を柱に新しい学舎を造り、平和な世界を作りたい。（筆者の同意を得て一部を編集委員がまとめました。写真は左から、藤田兄姉、小澤姉）

